

平成26年度第3回青森市自動車運送事業運営審議会 会議概要

【開催日時】平成27年1月29日（木） 午前10時00分～

【場 所】青森市交通部東部営業所 2階 大会議室

【出席委員】秋田谷洋子委員、柿崎祥子委員、工藤健委員、工藤弘毅委員、桜田清光委員、
舘山善也委員、種市勲委員、中谷良子委員、原子睦子委員、平出道雄委員、
柳谷章二委員、工藤雅史委員、千葉敏彦委員《計13名》

【欠席委員】工藤清泰委員《計1名》

【事務局】公営企業管理者 相馬政美、交通部長 成田謙司、
都市政策部参事都市政策課長事務取扱 石郷昭規、交通部管理課長 岸田耕司、
管理課副参事 船橋正明、同 新宅雅之、管理課主幹 横内信造、
同 佐々木幸人、東部営業所長 橘昭二郎、西部営業所長 相馬秀廣

【会議次第】

1 委嘱状交付式

(1) 委嘱状交付

(2) あいさつ

2 組織会

(1) 委員紹介

(2) 役員選出 会長選出 ⇒ 互選により平出道雄委員を会長に選出

副会長選出 ⇒ 会長指名により柳谷章二委員を副会長に選出

(3) 職員紹介

3 審議会

(1) 報告

①バス路線再編の見直し

②交通部の経営状況について

(2) 平成27年度に予定する主な事業（案）について

①平成27年度業務予定量（案）について

②平成27年度の主な事業（案）

(ア)【新規】定期券所持者特別運賃事業

(イ)【新規】運転免許証自主返納促進事業

(ウ) 広告事業の拡大

(a)【新規】企業向け広告付バスカード

(b)【新規】戸袋シート広告

(エ)【拡充】BDFを活用したバス運行

(オ)【拡充】ノンステップバスの導入

(カ)【継続】ミニギャラリーバス運行

(キ)【継続】車いす乗車体験

(3) その他

議事概要

(1) 報告

①バス路線再編の見直し・・・資料①

②交通部の経営状況について・・・資料②

《資料を基に事務局から報告後、質疑応答》

○委員

郊外路線を市民バスに移行後、利用者が減少したとの事だが、これまでバスを利用していた利用者がバス以外の交通手段に切り替えたためと思われる。分析は行っているのか。

○事務局

市営バス運行時より便数が減少したことから利便性も低下したため、やむを得ない部分があると考えている。

詳細について検証を行い、結果を平成29年度の計画策定に活かしていきたいと考えている。(分析を進めるよう、委員から意見あり)

○委員

市営バスの運行が廃止された浪岡病院へのアクセスは、どのようにケアしているのか。

○事務局

浪岡区間でコミュニティバスが運行されおり、浪岡病院もルートに含まれている。

○委員

バス路線再編にあたり、重要事項の一つに乗継拠点の整備があると思うが、どのように設定していくのか。利用者にとって、何度も乗り継ぎするのは、料金だけでなく、身体的な負担も大きいと思う。

○事務局

バスの特性上、玄関から目的地まで直結させるルートを設定する事は難しい。

特に利用者が多い県立中央病院や古川・青森駅方面への移動手段が、1日1便の直通のみという状況よりは、短い路線で乗り継ぎができる状況の方が利便性の向上に寄与すると考えている。

《その他意見等》

○委員

市営バスと市民バスで共通の利用券(ICカード等)の導入や、バスロケーションの整備を検討して欲しい。

○委員

バスの定時運行のため、時間調整をするバス停を設定するとか、同じ路線を走るバス会

社間でダイヤを調整してはどうか。

また、青森市が経営する市営バスが音頭を取り、バス会社間での乗り継ぎや、合同での設備投資（バス停整備）を行うなど、検討してはどうか。

○委員

いき・粋乗車証の1か月フリーパス券が1,000円に値下げされ、利用しやすくなったことを、もっとPRして欲しい。

（定時運行に関連して）冬はバスがいつ来るのか分からないので、運行状況等が携帯電話やスマートフォンで検索できるようにして欲しい。

（2）平成27年度に予定する主な事業（案）について

①平成27年度業務予定量（案）について・・・資料③

②平成27年度の主な事業（案）・・・資料④

《資料を基に事務局から説明後、質疑応答》

○委員

車椅子の方がバスを利用し気軽に外出できるよう、今後もノンステップバスの導入を進めて欲しい。

○事務局

今後、新規購入する車両はノンステップバスとしており、年次計画により更新していく。

○委員

平成27年度の主な事業（案）を実施するにあたり、ホームページによる周知だけだと、ホームページを見る手段の無い方もいるので、交通部独自の広報誌を発行するなど、紙媒体での周知もして欲しい。

○事務局

交通部独自の広報誌の発行は難しいので、これまで同様、広報あおもりにて周知していく。

○委員

企業向けに広告付きバスカードを導入する他に、贈答品や粗品としてバスカードを活用することはできないものか。

○事務局

広告付きバスカードは、バスカード作成費用を負担していただく方法となっており、ある程度のまとまった数が必要となるため、現状では難しいと思われるが、今後検討していく。

○委員

BDFやリサイクル燃料の利用は、社会全体として広げていくべきであり、市営バスが率先して利用しているのは意義があると思うが、実際の費用は軽油と比較してどの程度なのか。

○事務局

軽油価格は毎月の入札結果により変動するが、軽油は約110円/ℓ、BDFは約113円/ℓと、費用面ではやや割高である。

今後、BDFの生産量が増えれば価格も下がる可能性はあるが、経済性よりも環境への貢献、市が推進しているリサイクル活動への貢献といった観点から、BDFバスを運行している。

○委員

事故やトラブル回避のため、ドライブレコーダーの導入を検討して欲しい。

○事務局

ドライブレコーダーの導入は、その利用方法も含め検討していくこととしている。
